

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみっこ

7

Vol.247
JULY 2022

月刊

Yomi

NARA + YAMASHIRO + IGA

グルメやショップ、
温泉クーポンで
得々!!



yomiっこ
クーポン付
47店

NARA KAKIGORI
2022

かき氷

yomiっこお初ごおり15店



肉フェス 20店

BBQスポット &
グランピングを満喫!



特別記事

「中将姫と當麻曼荼羅」展

2022円の旅 山背古道ウォーク

自然と暮らす 磔工房 象水 / 井戸上博一さん

BOZE数珠つなぎ 玉泉院 / 油田正光 師

新日本妖怪紀行 あわれ影媛、布留の高橋

伊賀もん 久寿徳 松田酒店 / 松田光司さん



「日出ヶ岳より八剣山を望む」

撮影場所/大台ヶ原(上北山村)

📷 撮影者: @takuya_kiriyaama

奈良県と三重県の県境、大台ヶ原の最高峰「日出ヶ岳(標高1,695m)」からの景色。右手には近畿地方の最高峰「八剣山(八経ヶ岳)」、左手には十津川村と下北山村の境にある「釈迦ヶ岳」が望めます。

目次フォト 大募集!

yomiっこ「巻頭ページ」にあなたの写真を掲載!!

奈良の風景や伝統行事、イベントなど、あなたのお気に入りの写真を毎月募集します。

9月を感じられる1枚を募集 締め切り:7月15日

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④写真のタイトル ⑤説明文 ⑥撮影地を明記の上、画像をメール(info@ynl.co.jp)に送付ください。

*応募作品の中から編集部での審査の上、掲載を決定します。
Instagram「#ならっこぐらし」でも応募できます。

Yomiっこ

2022.7月号 vol.247

本誌掲載内容は6月6日現在の情報です。

「新型コロナウイルス感染症」の影響で、店舗の営業時間やイベント等の開催が変更になる場合があります。詳細は直接ご確認ください。

SHOP

11... SHOP☆SHOP

MAN

02... 自然と暮らす 磯工房 象水/井戸上 博一さん

18... BOZE数珠つなぎ 玉泉院/油田 正光師

REGULARS 連載記事

14... 美しいおもてなし

16... 西の京病院 メディカル最前線!

17... トドの毒舌

20... 新日本妖怪紀行

22... タウンニュース

24... スポーツ大好き

「小林ファイヤーズ」「天理エンジェルズ」

26... 読者のお便利FREE TALK&ちさとの星占い

28... クロスワードパズル&まめちしき

29... インフォメーション

「MUSEUM」「ART」「PLAY」「EVENT」

33... とんりのお屋ごはん メゾン・ド・パネトリー 本店

38... 2022円の旅 南山城の自然と歴史を訪ねる山背古道ウォーク

40... 伊賀もん 久寿徳 松田酒店/松田 光司さん

42... プレゼント

43... かわいいな

44... こちら編集部

04 炎の肉フェス



12 BBQスポット& グランピングを満喫!



34 NARA KAKIGORI 2022 かき氷 15店

45 毎月使ってね! yomiっこクーポン!



地蔵盆
みねのてら
8/27(土)
0742-45-2410 光明山 みねのてら
〒631-0027 奈良市学園赤松町2826-1 阿弥陀寺
みねのてら 検索

LINEスタンプ発売中!

●ぼんわかスタンプ
●ビジネススタンプ



株式会社 読売奈良ライフ

<https://ynl.co.jp>



Narakko 奈良の総合情報サイト 毎月25日デジタル
パンフレット配信!

<https://narakko.jp>

表紙写真/やさい菓子工房 cocoa、和牛亭 川彩、天地のテラスゆしお

本誌で掲載している価格表示は、原則的に税込みです(特に明示あるものを除く)



襦づくりを助ける3台のミシン。縫う作業は千鳥ミシンとポストミシン、八方ミシンは針を通すガイド穴を開けるのに使っている



裁断に使う皮包丁。毎日研ぐため短くなってしまったものも



襦づくりに使用する道具たち。針は皮用ではなく、細くて短い木綿針を使う。その方が皮への負担が少ないそう



使用される皮は、2種の鹿皮と牛皮

15のパーツを縫い合わせていく



一の腰を成形するための木型。手彫りなので襦師によって形に個性が出る



一の腰

水に象る発想で日々技を磨く 奈良県唯一の襦師



自然と暮らす

vol.170
襦工房 象水
井戸上 博一さん



襦は、弓道・弓術で弓を引くための道具。鹿皮製の手袋のようなもので、右手にはめ弦を掛ける親指を保護するために使用される。襦を製作する職人を「襦師」と呼ぶが、山添村に住む井戸上博一さんもその一人だ。

襦師になるまでは数学教員として奈良の県立高校で教鞭を取り、弓道部の監督も務めていた。襦を作ろうと思い始めたのは44歳の頃。自身が購入した襦の相談に山形県の弓具店を訪れた時、話の中で襦師に「襦の作り方は誰にも習っていない。全て自分で工夫したんだ」と教わった。「初めは何とも思いませんでしたが、婦りの新幹線の中でその言葉を思い出して、それなら自分でも作れるんじゃないか」と思いました。後日、使われていない襦を1つ分解してみても、これならできるぞと襦づくりを始めたんです。

しかし、まず鹿皮をどこで手に入れるのかがわからない。ネットでも発達していないという意味です。一つの形に収まるのではなくその時々に変化していかねければならないという私のポリシーに共通する言葉だと感じて決めました。

襦づくりも同様に日々改良を重ねられる。襦は基本手縫いだが、以前、襦づくりを教えた弓具店の店主が工業用ミシンを使って皮を縫い合わせているのを見て、自身もミシンを導入。これもタウンページを引張り出し、三宅町の工場からグロップなどに使われるミシンを買付けした。また諸襦（右手全てを覆う襦）の使用時に皮がだぶつくという壁に当たった時は、香川のでぶくる資料館を訪れ、西洋のレザー手袋をヒントに改良し見事解決。「僕が自慢できるとしたら妥協しなかったことですかね。襦は売り手市場で市販のものも多く流通しています、やっぱり使い手に合わせて作るのが一番いいです。次に作るものは前よりも良いものにと、どんどん改良して、使いやすい性能の良いものにしていかないと。どこかで妥協してしまつたら職人として終わります」



レザー手袋を参考に作った諸襦。親指の付け方が解決のヒントに繋がった

こうして作られた襦は性能の高さが弓引きの中で評価された。口コミで工房に足を運ぶ人がだんだん増え、ピーク時には2年の待ちもできた。高校生でも手に入れやすい価格とも言える価格も人気に

ない時代、井戸上さんはタウンページを見ながら皮革を扱っている工場へ片っ端から電話した。すると宇陀市菟田野に襦にも使えるなめし皮を扱っている工場があることが判明。すぐに訪ね、皮を数枚もらって帰った。

作り始めると早く、皮の成型方法などを工場の人に教えてもらいながらわずか3か月で1つが完成した。「素人が作ったとわかるものですが、ちゃんと弓が引けました」。昇段審査もその襦で合格した。「この後も2つ目、3つ目とうまくできてこれ襦師になれると思っていいたら4つ目で失敗してしまいました(笑)」

襦づくりの構想から10年、教員勤続30年の節目を機に教師を早期退職。自宅前に工房を建て襦師としてのセカンドキャリアをスタートさせた。

銘は「象水」。孫子の『兵法』に記される「兵形象水(兵の形は水に象る)」から取った。「兵の動きは水の流れのように地理条件に合わせて形を変えなければなら

火をつけることとなり、工房を開いてから現在まで、2100個以上の襦を1人で作り上げている。

しかし一方で深刻な原料不足が問題となっている。原料には中国のキョンという鹿の皮を国内でなめしたものが使われるが、数年前より中国からキョン皮が入らない状況に。「3年前に大量に仕入れていたので現在は作れています、なくなってしまうえばキョンの皮での襦づくりは終わりになります。代替になるような皮革も試していますがなかなか難しいですね」。水に象るように日々技を磨く襦師の目の前に新たな変化の時が訪れている。



襦工房・象水
山辺郡山添村中峰山988



IDOUE HIROKAZU
昭和27年、山添村生まれ。69歳。
鈴鹿高专で弓道を始める。金沢大学、広島大学大学院を修了後、
数学教員として山辺高校に赴任。
その後敵傍高校、北大和高校
(現・奈良北高校) 両校で計21
年間弓道部の監督を務め、56歳
で早期退職。平成21年から襦工
房「象水」を営む。

続きは電子書籍で見てね



Rakuten ブックス